

PV-NetNews

== 第26号 ==



PV-Net News第26号 2013年4月15日発行 ■発行人:藤井石根 ■編集人:都筑建 ■発行所:特定非営利活動法人 太陽光発電所ネットワーク
〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10湯島ビル602 TEL03-5805-3577 FAX03-5805-3588 ※記事および写真等の無断転載はお断りいたします。
■記事・広告等のお問い合わせ E-MAIL info@greenenergy.jp TEL 03-5805-3577 www.greenenergy.jp

太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。
太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

CONTENTS もくじ

- 1 もくじ
- 10周年告知、大集合報告
RE2012 参加報告
- 2 -5
- 2月16日開催 **特集**
- 大集合イベント**
- 各市民共同発電所の動向
野田村・秋田・伊豆の国・
RE うつくしま・恵那山・
小諸エコビレッジ・土佐
- 6-8 固定買取制度を
市民のために
- 9-11 PV健康診断・書籍
発電所長のつぶやき
PV グリーン販売報告
- 12-13 各地の発電量データと
太陽光発電所マップ
- 14-15 川柳 2013/ 新人紹介
RE2012 参加報告
- 16-21 地域の動き / 活動報告
宮崎・関西・兵庫・京都・
山梨・東京・神奈川・
- 22-23 2月理事会報告
- 24 事務局からのお知らせ

5月25日10周年イベント開催

今年でPV-Netは創設10周年です。この10年間の各地域の活動を振り返り、又今後のさらなる10年、20年を見据え、節目の10年目、結成の月5月に10周年イベントを行うことにいたします。会場は東京恵比寿駅近くの「シースクエア恵比寿」13:00 始まりを予定しております。詳細は追って連絡します。お誘いあわせの上ご参加ください。

5月25日(土) [13:00~17:30]

PV-Net 10周年記念イベント「基調講演と懇親会」

会場：恵比寿シースクエア

太陽光発電所長大集合 2013 報告

今年の発電所長大集合は会場をいつもの明治大学から水道橋へ移動し開催しました。この日は各地で動き始めている市民共同発電所の建設の近況報告が報告の中心になりましたが、PV-Netとして経産省調達価格等算定委員会宛に「調達価格等に関する改善提案」を発行(2月付)したことについての報告がプレスリリースを兼ねて事務局長よりありました。(プレス関係者3名参加)今年の冬は全国的に寒さがきついで、岩手、福島、秋田などからも大勢の方にお集まりいただきました。ありがとうございました。
2月16日(土)13:30-16:30(→2P~5P//内容掲載)

昨年7月の総会からインターネットでユーストリーム生中継を随時発信できるようになりましたが、この日もご自宅のパソコンからご覧いただいた方が若干いらっしゃいました。(終了後の今もパソコンで見られます。テレビ放送のような画質ではなく固定カメラの簡易な映像ではございますが雰囲気は味わえると思います。)

<http://www.ustream.tv/user/PV-Net-2012channel-1>



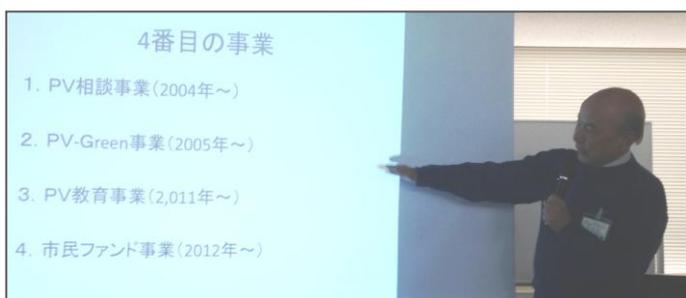
RE2012@幕張メッセ参加報告

昨年末12月5,6,7日、幕張メッセの第7回再生可能エネルギー世界展示会に出展参加しました。メガソーラーの時代に向けた各企業の意気込みが集まる3日間でしたが、PV-Netとしては「私達の手で充実のソーラーライフを！」を掲げ10年間一貫した市民団体としての活動紹介、PV相談活動、共同発電所や独立系パネルの紹介、数々の書籍の販売、グリーン電力証書の紹介等を行いました。来場者数は3日間です約3万5千人とのことですがPV-Netブースも相談に訪れる方が約100名弱、ブース訪問していただいた方、又、ボランティアでの立ち仕事にも参加会員の皆様、お疲れ様でした。(→15P写真掲載)

2.16 大集合イベント報告

太陽光発電所長大集合イベント 2013 誌上ダイジェスト、

「太陽光発電所長大集合イベント 2013 市民の手にエネルギーを ～広げよう市民共同発電所～」



今年の大集合は「市民の手にエネルギーを（広げよう市民共同発電所）」がテーマ。この日は全国から70名の参加者が集まりました。イベントのメインであり、好評を得た各地の市民共同発電所の事例発表について、26号では誌上ダイジェストとしてお届けします。

[冒頭の事務局長/趣旨説明時写真]



まず最初に岩手県から・・・野田村だらすこ市民共同発電所/合同会社野田村だらすこ市民共同発電所 共同代表/佐々木明宏さん・・・岩手県の県北にある野田村は、一昨年の大震災で津波の大きな被害に遭いました。人口約4600人の村ですが、その約7割が浸水の被害を受けています。現在、

盛岡に住む私が、被災地・野田村で何かできることがないかと考えていた時出会ったのが木工工房「だらすこ工房」のみなさんでした。だらすこ工房のお父さんたちと話し、彼らにとって本当に必要な支援とは何かを模索し続けました。震災から1年以上が経ち、日々、被災地への関心が失われていくなかで重要なのは支援を待つことではなく自分の足で立ち上がる姿勢、つまり自立です。自分たちの手で電気を作ることのできる市民共同発電所はピッタリでした。このアイデアを伝えると、だらすこ工房のみなさんも、太陽の力を使って地域を元気にしたいとおっしゃっ

てくれました。市民ファンドは、被災地から遠く離れた場所に暮らす方々にも現地の状況を知っていただくことで支援に参加してもらうことのできる仕組みです。オーナーとなっていていただくことによって、野田村との14年間というつながりが生まれます。このつながりこそが復興に向けての力になることでしょう。事業については、だらすこ工房代表の大沢さんと私とPV-Netさんとで合同会社を立ち上げました。PV-Net市民ファンドサポートセンターの熱い支援を受け、また「伊豆の国電気の畑」での取り組みやノウハウが、遠く離れた岩手で根付いています。本事業はお父さんたちの仕事づくりにつながるるとともに、「自分たちが手がけて作った発電所なんだ」という誇りと元気を与えてくれます。地域の人たちの力を結集しつつ、地元自治体も巻き込みみながら進めるこの活動に、この発電所を、被災地を支える力として、みなさまのお力もぜひともお借りしながら進めたいと思っています。



[写真:だらすこについて/佐々木明宏さん]

大沢大規模太陽光発電所/エナジーイノベーション株式会社 代表取締役 小野隆史さん・・・秋田市で53年続くLPガス販売店の長男として生まれた私は、祖父と父の背中を見て育ちました。物心ついた頃から、私の代のエネルギーはどうなっていくのかを考えていたこともあって、本格的に仕事を手伝うようになると、太陽光発電の販売も併せて始めるようになります。当然、お客さまに売るからには良いと思えるものでなければいけないと、自ら借金をして自宅の屋根に太陽光発電を取り付けました。ちなみに雪国・秋田は日本で一番日照量が少ない場所です。

3.11 を経て世の中のエネルギーへの関心が一気に高まるようになると、将来のエネルギーは変わらなければいけないという想いを強く持つようになります。そんななか海外に目を向けると、すでにエネルギーの多くを自給し、再生可能エネルギー100%を目指している地域がかなりあることがわかりました。原発がなくても、自分たちでエネルギーを生み出せば、地域で自立できるのではないかと考えた私は、昨年8月、エナジーイノベーションという会社を立ち上げ、地元でメガソーラーを建設することを決意しました。正直、お金はありませんでしたが、地元銀行からの融資を受けることができ、現在までに1.6メガワットという容量で設備認定を済ませています。とはいえ20年間、ただ安定収入が目的の発電事業では、地域に何も生み出しません。電力買い取りの原資となるのは、いわば国民全体から税金のように吸い上げたお金ですから、発電事業者はより多くの人に利益を分配できる形をつくるべきだと

というのが私の考えです。ですから、当初から市民ファンドという手法には憧れを持っていました。メガソーラーの建設予定地は、地権者が持て余していた原野です。12人の地権者が持つ4.1ヘクタールの土地で、交渉は難航することが予測されましたが、説明会では「環境にやさしいエネルギーを創り出す土地として活用してもらえればこんなにうれしいことはない」と満場一致で発電事業に賛成していただくことができました。



【小野隆史さん】

現在、配当として選ぶことのできる県産品をネット上で簡単に購入できる仕組みを準備中です。これにより少しでも秋田県の生産者に喜んでいただき、県外の方には秋田に興味を持っていただければと思います。

伊豆の国電気の畑発電所/

PV・Net 静岡地域交流会代表 田中東紀男さん・・・ちょっと目を引くこの「伊豆の国電気の畑」という名前は、市民から公募で募り、発電所の開所式典に参加したメンバーの投票により決定しました。発電所が建つのは、伊豆の国市奈古谷にある約900平方メートルの元牧場だった遊休地です。2012年7月、ここにPV・Netと3名のオーナーの共同で、6基・計55キロワットの市民共同発電所が完成しました。9月より稼働を始め、今年1月までの累計発電量は6441kWhと概ね順調です。この

調子でいけば年間で平均を1割近く上回る売電量になるのではと予測しています。建設費の総額は460万円。個人から一口10万円を借り入れることで資金調達を行いました。これはファンド出資とは少し異なり、年1%の利息をつけて、10年間で完済していくというやり方です。初めは本当に集まるのかが不安でしたが募集を始めると予想外に早く目標額に達し、自分たちでも驚いております。工事は原野の草を刈るところから始めました。もともとはまったく電気の届いていない場所だったため、「電源坊や」と名前付けた独立型のPVパネルとバッテリーを組み合わせて工事に利用しました。作業としては、イノシシに荒らされた地面を整地し、その地面に単管パイプを打ち込み、架台を組み上げます。市民の手によって組み立てられたこの発電所は、経費などを非常に低く抑えることができました。また、6基の発電所をバラバラに作るのではなく、団体と個人オーナーとが共同設置したことで、設備の一括仕入れができたことも大きいです。さらには、地目を変更しなければならない農地ではなく、林野だったということもスムーズに建設が進んだポイントです。



【田中東紀男さん】

自分たちの発電所が1つ目に見える形で完成したことで、第2弾、第3弾の発電所建設にも着手し始めました。1月末には合同会社静岡市民共同発電所という会社を立ち上げ、市民出資型の仕組みで資金を集めていく計画です。

RE うつくしま発電所/NPO 法人まちづくり喜多方代表理事 蛭川靖弘さん・・・福島は震災から2年が経ち、非常に複雑な状態になってきています。昨年12月現在、まだ15万人以上が避難生活を続けており、避難者と地域住民との軋轢も生まれています。世界的にも稀有な事故を起こしてしまった福島から、変化を起こさなければなりません。**RE うつくしま発電所**は特別目的会社で、社名には「美しい福島を取り戻す」という意味が込められています。7月には第1号となる200キロワットの発電所が完成する予定です。その後、4年間かけて9基増設し、最終的には2メガワットの発電所に広げていく計画です。さらに発電所の発電収益は、地元の除染事業に活用します。福島県全域を自然エネルギーの先進エリアに転換させつつ、除染を進めるこの取り組みは、国内はもとより、海外にも知っていただけるモデル事業となるはずで、事業資金の核となるのは企業や個人からの寄付金です。3月にはニューヨークで開催されるイベントにブース出展を行い、寄付を呼びかけます。また、インターネットを介してクレジットカード等で簡単に寄付が行えるクラウドファンディングの仕組みを構築し、世界中から寄付を募っていきます。



【蛭川靖弘さん】

そしてこの発電事業の特徴の1つがマイパネル。マイパネルとは寄付していただいた方への感謝の気持ちとして太陽光パネルに寄付者のネー

ムプレート掲げる仕組みです。さらに、一定額以上の寄付をいただいた方には「うつくしまふくしま記念プレート」を進呈します。これらのプレート製作を託児所付きの軽作業所で行うことにより、母親と高齢者がともに働きながら、なおかつ子育てにも一緒に関わる環境を作ります。昨年6月からは、京都精華大学の山田國廣教授のアドバイスのもと、地域住民が自分たちでできる除染方法についての実証実験を重ね、住民でも簡単に確実に除染ができるアイテムが完成しました。私たちは、これら太陽光発電の運営と除染事業を通じて、汚染された福島に「うつくしまふくしま」を再生し、子どもたちの笑顔を取り戻していきます。

恵那山おひさま発電所/PV-Net 中部地域域交流会 代表 野原敏雄さん・・・中津川市は島崎藤村ゆかりの地で、木曾山の入口にあたります。市街地を除く周辺はさびしい農村部で、過疎化や医療・福祉の不足が悩みの種です。そこで、地元から寄付を募り、地域の医療や福祉を支える施設を作りましたが、運営の状況は厳しくなっています。そうしたなか、市民共同発電所を地域づくりの一つの柱として位置付けています。しかしながら、すでに医療・福祉施設の建設の際に多額の寄付をお願いしたことから、改めて、発電所建設のための寄付を募ることは難しく、ファンド方式が資金集めが有効な手段となることを期待しています。発電所の建設場所には、競売で入手した園芸業者の跡地を利用します。もともと温室だった場所であることから、電線などの設備が整備されており、非常に条件に恵まれ、電気技

術を持っている地元業者も参加しているので力を発揮してもらおう場もなっています。



【野原敏雄さん】

発電による収入は、資金の足りない福祉施設に寄付する予定です。また、14年でファンドを完済した後は会社を解散し、残った発電施設は地元の福祉団体に寄贈するというので、関係者の承認を得ることができました。ファンドの募集に当たり、地域の方々に趣旨をご理解いただき、多くの支持を広げられるかということについては、若干の不安があります。しかし、過疎化し荒廃していくこの地域で、将来の明るい展望は、自分たちの手で行うことができるのだという確信を持っていただきたいのです。それを実現してくれるのが、市民発電所であるはずで、電気をつくり、使い、生活を変える——。この発電事業を入口に、地域に変化をもたらしていきたいと願っております。



【事務局ファンド担当：塩澤さんからサポートセンターとしてのファンド説明】

小諸エコビレッジ発電所/ PV-Net

事務局 次長 伊藤麻紀さん・東京都港区所有高原施設跡地の有効利用として、地元の有志(こもろはす)、オーガニックコットンの(株)アバンティそしてPV-Netの3者共同で「小諸エコビレッジ」を運営しています。発電所建設ですが、今年、長野県の“元気づくり支援金”を受けたことをきっかけに先日の工事開始までたどりつきました。今回の発電所作りでは、長年の夢であった中古パネルを活用しました。三菱製(3.09kW)とサンヨー製(4.56kW)で、1基は会員さんから寄贈頂きました。

システムとしては韓国製の新パネルも導入し13.4kW規模の発電所が誕生しました。設置は事業者の指導の元、市民参加で行いました。昨年12月の岩手県野田村の体験を参考に、塩・酒・水で土地の神様に感謝してから工事に入りました。ボランティアの方が大活躍し単管パイプの打ち込みや組み立てを行いました。最終日はテレビ局や新聞社の取材もはあり、当日のニュースで放映されました。今後、家の建て替えや取り壊しで生まれる中古PVを活用し、各地の中古パネルが集まる“パネルの遊園地”の様な発電を作っていければと思います。



[伊藤麻紀さん]

土佐くろしおソーラー発電所/スマートエナジー

吉田麻友美さん・・・当社がメイン株主となり「土佐くろしおソーラー発電株式会社」が営業

者として動き出しております。私どもは第二種金融商品取引業者免許を持っておりましてこのファンドの募集もやっております。昔、お茶畑だった高台の空き地を利用します。パネルは京セラ、パワコンは富士電機を予定。計画としては総工事費7.5億円のうちリース会社から4.5億円、残り3億円を市民出資型での募集を開始しております。造成から地元の建設会社さんに参加していただき、建築計画も地元大手エンジニアリング会社さんと進めております。一口50万で18年、配当目標3.5%です。日射量は全国上位のこの地域ですが、発電量収入は保守的に事業計画を作り、もしも見込よりも上回った発電量のある場合は13年以降のプレミアム配当も計画しています。設備認定は先週四国経産局に申請し42円が確保され、春には建設に入り、11月には発電を開始したいと考えております。

配当はキャッシュですがファンドが集まった時点の記念品に地元県産品を考えます。地元

的メリット、社会的メリットも色々考えておりますが、当社はCO2削減、創エネ省エネ、環境教育等のコンサル事業を主にやっていたので、この高知県においてもこの要素を計画の中に組み込んでいこうと思っております。それから、太陽光発電においては経験豊富なPV-Netさんと、このようにタグを組み、ファンド説明会、講座等も交え、土佐から高知県全体へこの動きを広げたいと思っています。



[スマートエナジー吉田麻友美さん]

第3部の懇親会/福島から来られた

蛭川さんの挨拶の後、

盛岡からの佐々木さんが発言(写真)



一般参加の方も含め、集合写真



固定買取制度を市民のために

・・・都筑 建

3月29日、固定価格買取制度に関する平成25年度の買取価格が決まりました。大企業のためだけの制度にしないためにも、われわれ市民にはFITを地域社会のために活かすことが求められます。

1. 固定買取制度の仕組みを見直すと

昨年7月から施行された「再生可能エネルギー電気の固定価格買取制度」は2つの重要な調整機能があります。その一つが賦課金の回収分配を行う「費用負担調整機構」です。この制度では電気事業者は、再生可能エネルギー電気を一定の期間・価格で買い取ることが義務付けられ、その買取りに必要な費用は、電気の利用者から賦課金（サーチャージ）として地域間格差を調整しつつ集められます。この調整機能として経産省から一般社団法人低炭素投資促進機構が指定されています。理事長が新エネ部会長だった柏木東工大特命教授で社員は㈱損害保険ジャパン、三井住友海上火災保険㈱、東京海上日動火災保険㈱の3社からなってい

ます。私たちが納めるサーチャージ料金を電力会社内で決められるよりは良いとしても、もっと第三者的メンバーで取り扱われるべきでしょう。

もう一つの調整機能は「調達価格等算定委員会」です。普及状況とシステム建設価格の動向を勘案して買取価格、期間、区分等について見直す委員会です。[下図a]

2. PV-Net より買取価格制度の改善を提示

当初は3年間程度は買取価格等は不変で行くのかと予測されましたが、1月12日から

・・・・・・・・・・・・・・＜資料＞・・・・・・・・・・・・・・

経済産業大臣 茂木敏充殿 平成25年2月16日
 調達価格等算定委員会
 委員長 植田和弘殿

調達価格等に関する改善提案

NPO法人太陽光発電所ネットワーク
 代表理事 藤井石根
 専務理事 都筑 建

太陽光発電システムのユーザーであり、同時に再生可能エネルギーを最大最良に普及・運用・維持を求める市民として2012年7月より施行されている固定価格買取制度の調達価格等算定見直しに関して施行後の状況を踏まえて以下の提案を行います。改善の程よろしくお願ひします。

記

改善1. 区分として太陽光発電の「10kW以上～50kW未満」の新設と優遇価格の設定
 地産地消と言われる太陽光発電は固定価格買取制度施行後住宅用、非住宅用（いわゆるメガソーラー）問わず堅調な普及を示しています。10kW以上の区分では500kW以下の、50kW前後の設備がその認証申請で非常に多いとの報告を受けています。これは国土の広さなどの国内の設置条件等を反映したもので、中小企業・団体や市民が固定価格買取制度を活用する場合に最もマッチした規模であることによっています。特に市民共同発電所はこれまでの様な建設資金を寄付型の小規模ではなく出資型の中規模の太陽光発電設備導入をすることによって、該当地域での運用が実用的活用となっています。

市民が本格的に参加運営できる意義と発展が地域を潤すものと期待されます。しかし中規模の50kW前後のシステムは現状の買取価格では収支が非常に厳しくなっており、その需要にマッチしていません。

このミスマッチを解消するためには算定価格等の見直しにおいて、区分として10kW未満を省いた一般電気工作物として「10kW以上～50kW未満」の新設し、現行の調達価格40円/kWh（消費税抜き）を維持するかそれ以上の優遇価格とする措置を求めます。

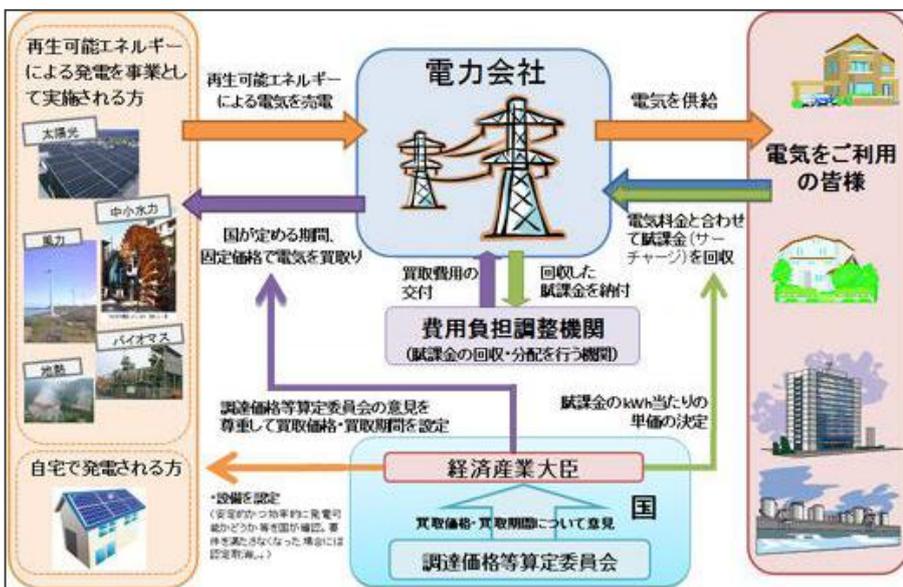
改善2. 10kW未満の余剰電力方式での価格を維持し、買取期間を20年間とすること。
 住宅用太陽光発電（10kW未満）の普及の数は依然として日本は世界でトップを堅持し、更なる普及拡大が望まれています。特に住宅用では国内メーカーが採用される割合が圧倒的に高く、国内産業支援の役割も果たしています。また、余剰買取方式であれば全量買取方式より予算総量の観点からも普及を促す点でも価格は高くあるべきであり、買取期間も10年間ではなく他の項目と同等の20年間とするよう求めます。

改善3. 住宅用太陽光発電（10kW未満）の調達終了後の買取内容の明確化
 現状の住宅用太陽光発電システムでは10年間内の初期投資回収は確実でなく、調達期間終了後の売買電制度の継続は必要です。もし余剰買取方式の買取期間の見直しは現状のままとするならば、その10年後からの売電価格と期間を明確化（指針化）するよう求めます。
 以上
 ・・

再開された第9回算定委員会では、この制度への申請の9割が太陽光発電に集中したとシステム価格が10%程度下落したとの理由で買取価格引き下げの「見直し」の方向が強く見て取れました。PV-Netとして急遽理事会（2/2）確認を経て提言を上図のようにまとめ、経産省新エネ課を経て経産大臣と委員会委員長あてに提出しマスコミ発表（2/16大集合会場で）を行いました。

[上/改善提案参照]

改善の第一に10kW以上50kW未満の区分新設を挙げ、価格の維持を主張したのは、市民ファンドを活用した市民共同発電所のサポート事業の



中で、地域の自然エネルギー確保の拠点となることの重要性を 3.11 被災調査などで経験したこともあり、再確認し、さらに 500kW 以上に合わせた本制度のメガソーラ偏重の不自然さを是正させることと、申請が圧倒的に 50kW 前後が多い事実を見据えたうえで、この低電圧区分でもっと活用され、地域に貢献するように活用されるべきと考えました。実態を見ても各地でこの区分で苦闘している事例をまのあたりにして提言したものです。

3. 地元を無視したメガソーラー

この固定買取制度に対しては PV-Net は 2009 年 9 月 20 日付けで「余剰電力買取義務制度と全量電力買取義務制度についての考察」を発表しています。

内容は会報 19 号（2009 年 10 月）の PV-Net 最前線①「買取制度の動向」、及び PV-Net のホームページの「9. 余剰/全量電力買取義務制度について」
<http://www.greenenergy.jp/pdf/stuzuku20090920.pdf> を参照してください。この時の「節度ある買取制度を」という主張は今のバブル的地元を無視しがちなメガソーラーのオンパレードを予測し警告を発しているものとして見直されています。

現在、PV-Net にはマスコミ等から住宅街に何の相談もなくメガソーラーの設置計画が浮上して、太陽光そのものには反対しないが目の前に広大なパネルが並べられるのには抵抗があると複数の地域で反対運動が起こっており、それへのコメントを求められることが多くなっています。「市民・ユーザーに最も合った節度

のある普及」が望まれます。



[大集号イベントでも話す事務局長]

4. 算定委員会の結論

3 月 11 日の第 11 回算定委員会での下記の[図 b]の様に太陽光発電のみが価格低下見直しとなりました。

改定となった太陽光発電のみがこれまでと比較した形で公表されています。

そして固定買取の要件としては次項の[図 c]ような内容が付記されています。

[図 b]

平成25年度調達価格及び調達期間についての調達価格等算定委員会案

①太陽光発電(10kW未満):

		平成24年度調達価格	平成25年度調達価格(案)
調達価格		42円/kWh	38円/kWh
資本費	システム単価	46.6万円/kW (平成24年1~3月期の新築設置平均)	42.7万円/kW (平成24年10~12月期の新築設置平均)
	補助金	国 : 3.5万円/kW 地方 : 3.8万円/kW	国 : 2.0万円/kW 地方 : 3.4万円/kW
運転維持費	修繕費 諸費	建設費の1%/年	今年度の前提を据え置き
IRR		3.2%	今年度の前提を据え置き
調達期間		10年	10年

②太陽光発電(10kW以上):

		平成24年度調達価格	平成25年度調達価格(案)
調達価格		40円/kWh(税抜) 42円/kWh(税込)	36円/kWh(税抜) 37.8円/kWh(税込)
資本費	システム単価	32.5 万円/kW	28.0 万円/kW
	土地造成費	0.15 万円/kW	今年度の前提を据え置き
運転維持費	土地賃借料	年間150円/m ²	今年度の前提を据え置き
	修繕費 諸費	建設費の1.6%/年	今年度の前提を据え置き
	一般管理費	修繕費・諸費の14%/年	今年度の前提を据え置き
	人件費	300万円/年	今年度の前提を据え置き
IRR		6.0%	今年度の前提を据え置き
調達期間		20年	20年

③太陽光発電以外(風力、地熱、中小水力、バイオマス):平成24年度調達価格及び調達期間をそのまま据え置き

[図 c]

[図 a, b, c 経済産業省 HP より]

【図 c 太陽光発電の要件】	10kW 未満 (ダブル発電含む)	10kW 以上 (屋根貸し含む)
	満たさねばならない基準	A+B+C
A	<ul style="list-style-type: none"> ○調達期間中、導入設備が所期に期待される性能を維持できるような保証又はメンテナンス体制が確保されていること ○電気事業者に供給された再生可能エネルギー電気の量を計量法に基づく特定計量器を用い適正に計量することが可能な構造となっていること ○発電設備の内容が具体的に特定されていること (製品の製造事業者及び型式番号等の記載が必要)。 ○設置にかかった費用 (設備費用、土地代、系統への接続費用、メンテナンス費用等)の内訳及び当該設備の運転にかかる毎年度の費用の内訳を記録し、かつ、それを毎年度 1 回提出すること。ただし、住宅用太陽光補助金を受給している場合は不要。 ○【既存設備のみ適用】 既存の発電設備の変更により再生可能エネルギー電気の供給量を増加させる場合にあつては、当該増加する部分の供給量を的確に計測できる構造であること 	
B	<ul style="list-style-type: none"> ○パネルの種類に応じて定める以下の変換効率以上のものであること。(フレキシブルタイプ、レンズ、反射鏡を用いるものは除く。) ・シリコン単結晶・シリコン多結晶系 13.5%以上 ・シリコン薄膜系 7.0%以上 ・化合物系 8.0%以上 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ○JIS 基準 (JISC8990、JISC8991、JISC8992-1、JISC8992-2) 又は JIS 基準に準じた認証 (JET (一般財団法人電気安全環境研究所) による認証等を受けたもの)。 ○余剰配線 (発電された電気を住宅内の電力消費に充て、残った電気を電気事業者に供給する配線構造) となっていること。 ○【ダブル発電のみ適用】 逆潮防止装置があること。 	
D	<ul style="list-style-type: none"> ○【屋根貸しのみ適用】 (1)全量配線となっていること。 (2)設置場所が住宅の場合は居住者の承諾を得ていること。 	
買取条件 (価格・期間)	38 円 (税込) ダブル発電の場合 は 31 円 (税込) 10 年	37.8 円 (36 円+税) 20 年

ることです。

この時の市民ファンドには

(1)テーマ性

(2)寄付・出資等受け入れの多様性

(3)営業者の透明性

(4)運営主体の市民性

を要件とするべきと私たちは考えます。行政よりも助成や融資の柔軟性が高い上、市民からの政策提言や政策推進の機能も合わせもつものです。出資を扱うので金融取引法の枠の中で運営しなければなりません、株式会社と NPO 法人とが違うように、投資ファンドと市民ファンドは領域も理念も目的も違うものです。

固定価格買取法を黙って「投資ファンド」の「投機」の場にさせないで、市民社

5. 固定買取制度を市民が活用できるようにするために

50kW 前後の市民共同発電所は市民ファンドサポートセンターの取組でも主力です。

「投資ファンド」と「市民ファンド」はファンドという言葉を使い、出資を不特定の人々に対して集めるという同じような行為もありますが、内容と目的が本質的に違うものです。

「投資ファンド」は「儲け」、それも「ハイリスク・ハイリターン」を絶対的な目標にし、多くは透明性

のないものです。ライブドア事件を始めとする数々の問題を起こしています。その最たるものは金融危機を起こしたヘッジファンドの行為と破綻だったのは記憶に新しいものです。

「市民ファンド」は市民からの寄付・出資を中心に、市民の活動に助成をする、市民が運営する基金です。コミュニティーファンドなど様々な形があります。

PV-Net が採用しているのは基金そのものの運用を主力にするのではなく出資募集や企画運営をサポートす

会、地域社会を充実させるためにこの制度を活用して、市民ファンド利用の市民共同発電所建設を普及させる意義と共感を強く会得、実感しています。さらに今度は皆さんと共にこの共感のうれしさと意義を体感したいために、岩手・野田村や秋田への市民共同発電所見学エコツアーを企画中です。もちろん出資も受け付けています。



発電所長のつぶやき

毎月の発電量を送ってくださる会員さんのコメント（事務局への通信欄）を「発電所長のつぶやき」として発信します。

●11月の通信欄より・・・

・曇・雨の日が多い月でした。2011・2012の発電量比較結果送付頂きありがとうございました。表の数値が理解できません。（岐阜県Fさん）・トラブルはないように思います。（静岡Sさん）・いつもお世話様です。毎日寒い日が続きます。皆様のご健勝を祈ります。（神奈川Kさん）・故障した変換器11月12日交換終了しました。なので11月の発電量は13日～30日までとしました。12月からは従来の発電に戻ると思います。（茨城Kさん）・曇天が多かったが昨年より発電量が多い？（愛知Oさん）・11月分としてはH22年に次いででの発電量好成績でした。自給率最高。（東京Wさん）・トラブルは特にありませんでした。（東京Tさん）

●12月の通信欄より（1月に届きます）・・・

・あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。皆様にとって良い年であると共に、ソーラー設備が増えることを祈っています。（神奈川Kさん）・謹賀新年 本年もよろしくおねがいします。千葉Mさん・あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。（千葉Kさん）・寒かったか？今迄に一番消費した！（愛知Oさん）
・明けましておめでとうございます。（奈良Nさん）・国井様ようやく正常に戻ったようです。（奈良県Kさん）・本年もよろしくお願ひ致します。（千葉Kさん）・2012年はお世話になりました。2013年よろしくお願ひします。（静岡Mさん）
・前年同月と較べてやや消費電力が増え発電量が落ちた。この12月中は低温に経過したのでNO.1機が12年経過し劣化した疑いがあります。（東京Wさん）

●1月の通信欄より・・・

・こんにちは、いつもありがとうございます。トラブルのないように思いますが……。お日さまがニコリしてくれないと……。PVの入金はいつごろ？あまり記憶がつかないので……。切手をいれておきます。（静岡Sさん）・1月14日20cm近い積雪 その後10日間以上、パネルに乗った雪が積もった、とけた後も降雪あり（長野Mさん）・厳寒の候、事務局の皆様どうぞご自愛の程 お過し下さい。（千葉Kさん）・今日は、大雪です。皆様お体を大切に！（福岡Hさん）・今日の「調べて瞬時最大発電力が5.4を記していた。（愛知Oさん）・積雪・天候曇が例年より多かった様です。（岐阜Fさん）・トラブルは特にありませんでした。（東京Tさん）

●2月3月の通信欄より・・・

・2月としては最高の発電量でした。天候が良かった為と思う。（埼玉Yさん）・平成25.1.22設置、2月分買電量514.9kWh 9,181円、発電量244kWh 売電量172,6kWh 7,250円、使用電力量586.3kWh11,287円（神奈川Hさん）・今年の2月は当地では降雪の日が多く、しかも気温が低いため、雪解けもなかなか進まず晴天の日であっても太陽光がパネルに届かず、発電電力量が0～6kWhの日が15日～19日（5日間）続きました。・天候がよいため発電量が最近では最高でした。（埼玉Yさん）

書籍紹介.....

コラム

「太陽光発電技術者育成のための基礎知識」

太陽光発電所ネットワーク/藤井石根 監著 1,500円

東日本大震災とそれを発端とした福島第一原子力発電所の事故は、日本のみならず世界に大きな衝撃を与えた。教訓というにはあまりにも重大な事故のなかにあつて、私たちは復興と同時に未来におけるエネルギー問題を考えていかななくてはならない。その大きな柱として注目を集めているのが、自然エネルギーであり太陽光発電だ。こうした太陽光発電への期待を込めて本書「太陽光発電技術者育成のための基礎知識」は製作された。

発行は太陽光発電に関心を寄せる有志たちによる市民団体「太陽光発電所ネットワーク（PV-Net）」。基本書ではあるものの“技術者育成のための”と掲げているだけあつて、太陽光発電に関する一般的な解説書とは趣を異にする。太陽光発電の仕組みやエネルギー問題に関する基本的な知識はもちろんのこと、屋根への太陽電池アレイの取り付けといった具体的な工法解説や、全国約2700名のPV-Net会員から集めた生の声やトラブル事例などが、全130ページのなかにコンパクトに収まっている。

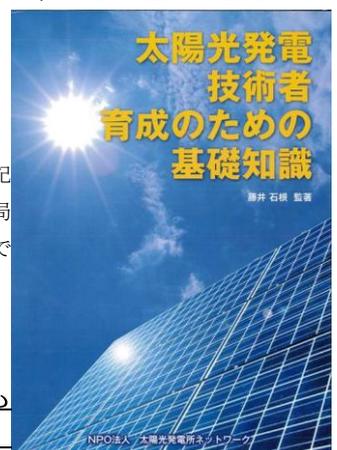
専門的・実践的な内容も多く、一般の人には少し難しい内容かもしれない。しかし、火力発電や原子力発電のようにコンセントの向こう側が意識できない発電方式とは違い、太陽光発電は私たちにもっとも身近で、自らが関わることのできる発電方法だ。より賢く豊かに太陽光発電を使うためには、どうか一般ユーザーにも読んでいただきたい。レベルの低い業者も少なくないと聞く。すべてを他人任せにするのではなく、自らが学び考えることこそ、新たなエネルギー時代の賢い太陽光発電運用術といえるだろう。（環境ライター加藤 聡）

会員のみなさまには 特別価格 1,200円（税込/送料別）

でご提供しています。

メール件名を【書籍注文】として、
住所、氏名、電話番号、冊数を明記の上PV-Net事務局
(info@greenenergy.jp)まで
ご連絡ください。

講演会・イベント等にも
是非、お役立てください。



PV 健康診断 報告

●PV 健康診断(推定発電量との比較)の

システム修復状況のご報告

一昨年(2019年)の3・11大震災により健康診断用サーバが被災し、推定発電量の表示が不安定となり、昨年の夏以降、表示がされなくなる状態が続いております。この事態に下記のような対応を進め、11月を目途に復活とのご報告を差し上げましたが、未だ、表示が回復できない状況が続いております。

改めて経過を説明いたしますと、ご存知の通り「推定発電量」は独立行政法人産業技術総合研究所の協力を得て算出しています。PV-Netの活動趣旨に賛同いただいた研究員の方の研究成果を、ボランティアな協力により提供して頂いております。研究開発されて10年以上経過し、使用しているサーバーPCの老朽化が進み、大震災の被災をきっかけに現在産総研内のサーバーの不調が続き、復旧に至っていません。不具合が発生後、研究者の方と話し合い、産総研外でサーバーを借りて運営していく手筈を整えておりました。これまで通りPV-Netへの協力を頂いているのですが、すでに本事例は研究項目外で、ボランティアに頼るところと、その本業も超多忙となり、なかなかスケジュールどおりの対応が進まない状況が続いております。この「PV健康診断」は、他に類似のソフトも増えていますが、精度や使い易さや応用性など他の追従を許さないとの評価もあり、引き続き回復の協力依頼を続けています。さらにそのような状況も視野に入れ、PV-Net独自で推定発電量の算出アルゴリズムを作成し、会員の皆様に提供するという方法の構築も始めています。開発資金の目途もつけ、独自の健康診断を構築試行していた神奈川の会員の協力を得て、PV-Net独自の推定発電量の算出アルゴリズムの制作に取り掛かっています。さらに加えて、システム化する予算も確保でき、現在製作会社と共に、システム構築をすすめております。予定より伸びていますが今年度中の6月を目途に新たな推定発電量表示を皆様にお届けできる予定です。

この不具合を通して「PV健康診断」がPV-Netと会員皆様にとっていかに重要なものかを理事会でも再確認しております。ご迷惑をおかけいたしますが、今しばらくお待ちいただきますようお願い申し上げます。

また、発電量の検証については「近隣との発電量比較」でも確認できますので、そちらもぜひご活用下さい。使用方法など不明な点は事務局までご連絡ください。電話にてサポートいたします。

PV グリーン 報告

H24年度(H24年4月1日からH25年3月)の一年間の「PV-Net グリーン電力証書」販売量は1,155,004kWhでした。H23年度は1,064,413kWhでしたので全体としては少し増えた事になりますが、環境省委託事業分も含まれた数字ですので、その分を除くとやや減少した販売内容です。

並行して皆様からお預りした発電電力、認証された電力も増え続けていますので、現在、在庫が大きく減る状態には至っておりません。「PV-Net グリーン電力証書」を毎年定期的に購入される企業・団体、又はイベント主催者との通常のつながりだけではなく、新規の開拓、新しい利用促進もこれからもさらに目指していきたいと思っておりますので、会員の皆様からも多くの情報もいただきたいと思っております。この関係をさらに強く活用して「PV-Net グリーン電力証書」販売拡大につないでいきたいと考えております。

●一年間の「PV-Net グリーン電力証書」購入者の一覧を次ページに掲載させていただきましたのでご参照ください。 [→ → →]

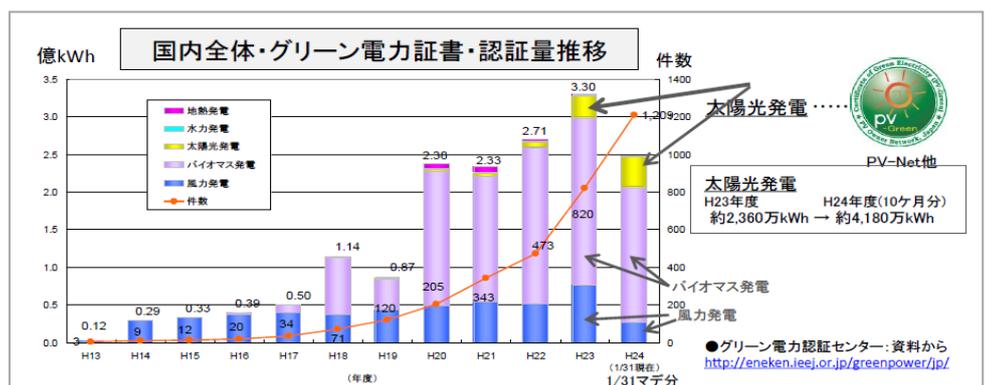
環境省分を除くと注文の約4割が産地指定、約6割が産地指定無、という購入傾向でした。

産地指定無の購入につきましては、昨年11月までは05P009(2005年第2期ファーム)の2007年9月~2008年8月期間の発電分を販売し、その後12月からは05P105(2005年第3期ファーム)の2007年12月~2008年11月期間の発電分を販売しているところでした。

勿論、産地指定がある場合は上記とは全く別に、その産地、各産地で古くから販売している(在庫としてある)ファーム順に販売しております。全国的にみますと現在の在庫は北海道、東北地方、中国地方以外、豊富に残っている・・・という状況です。

昨年は結婚式で新郎新婦それぞれの出身県で生まれたグリーン電力利用の式を提案し、実行された方もいらっしゃいました。量は少なくとも大きな1歩だと思っております。これからもPV-Netにしかできない全国組織もうまく利用し、発電所ネットワークとして、グリーン電力証書の普及や販売に、皆様の日頃の頭の片隅、または大胆なセールスにむけたご協力等もお願いしたいと思っております。

[参考/国全体のグリーン電力認証の進捗状況/下図]



昨年度(H24年度)「グリーン電力証書」販売実績を報告いたします。

詳細のお問い合わせはG電力証書販売担当/藤井(和)までください。

【7年間の認証発電量と販売】

7年間の認証発電量と販売	認証発電 kWh	販売実績 kWh
H18年度(4月～翌3月)	539,236	161,843
H19年度(4月～翌3月)	1,311,846	459,446
H20年度(4月～翌3月)	888,055	1,118,653
H21年度(4月～翌3月)	1,305,670	535,950

7年間の認証発電量と販売	認証発電	販売実績
H22年度(4月～翌3月)	1,121,856	708,468
H23年度(4月～翌3月)	1,605,078	1,064,413
H24年度(4月～翌3月)	1,966,208	1,155,004
7年間累積(kWh)	8,737,949	5,203,777
	累積残	3,534,172

【H24年度販売量と販売先】

※H23年度は 1,064,413kWh (環境省504,800kWh含)

<p>平成24年度 (2012年4月～2013年3月) 全販売先一覧 「ご購入ありがとうございました!!」</p>	1,155,004 kWh
環境省	831,234
産地指定	139,090
指定無	184,680

葛飾区ソーラー価値買取事業(葛飾区分)		10,596
H21年度環境省ソーラー価値買取事業(九州村田自動車発電所分)		35,701
H21環境省ソーラー価値買取事業(セブンイレブン九州西地区33店舗)		175,707
H21環境省ソーラー価値買取事業(セブンイレブン九州北地区33店舗)		172,774
H21環境省ソーラー価値買取事業(セブンイレブン九州東地区21店舗)		109,486
H21環境省ソーラー価値買取事業(セブンイレブン新規店舗9店舗分)		43,244
H22環境省ソーラー価値買取事業(セブンイレブン九州地区14店舗)		62,547
H22年度環境省ソーラー価値買取事業(九州シアーズ発電所分)		28,305
H22環境省ソーラー価値買取事業(セブンイレブン関東地区5店舗)		25,037
H22環境省ソーラー価値買取事業(セブンイレブン中国地区38店舗分)		178,433
第35回東大阪市民ふれあい祭	大阪府	1,000
宇部市地球温暖化対策ネット2012春	山口県	1,000
関西リサイクルシステムズH24年度	指定無	50,000
ハイブリッドクラリネット@北海道	指定無	600
生協バルシステム山梨本部事業所	山梨	10,000
H24年度 高松市環境展	香川県	300
ならこ2012版	奈良近県	5,000
ツバルの森	指定無	42,000
ajito55	愛知県	100
大垣ダイキュー	大垣	300
コニカミノルタ	指定無	600
バルシステム東京	東京都	2,000
明電舎	品川区	250
東都生協	東京都	200
カレーハウスCoCo壱番屋(サンメッセ)	指定無	100
積水化学工業株式会社	指定無	1,200
環境フォーラム2012.6.30	大垣	100
さいたま市役所	埼玉	100
NO-NUKESコンサート幕張メッセ	指定無	8,500
Q1/第1四半期計		965,180

第61回宇部祭(山口県)	☆被災地県	2,000
三重大学	三重	600
サンメッセ印刷	大垣	400
武蔵野市	東京都	924
日芸芸術祭	練馬区	1,530
小諸ケルティック・コンサート実行委員会	小諸市	300
て～しゃぼストリート2012イルミネーション	静岡県	1,100
日比谷花壇イオン日の出イルミネーション	指定無	200
日比谷花壇イオン太田イルミネーション	指定無	300
日比谷花壇イオンむさし村山イルミネーション	指定無	400
日比谷花壇イオン甲府昭和イルミネーション	指定無	600
ツバルの森	中国地方	1,000
甲府市2012年秋15回リサイクルフェア	山梨県	300
大宮アルディージャ2012秋	埼玉県	8,000
小諸市光のファンタジー2012	小諸市	1,400
日比谷花壇東急キャピタルタワーイルミネーション	指定無	4,300
増商	静岡県	400
ウエスト名刺印刷	指定無	100
御堂筋イルミネーション	大阪	28,900
日比谷花壇東急木曾川イルミネーション	指定無	4,300
日比谷花壇東急つばイルミネーション	指定無	1,100
コニカミノルタ臨時総会	指定無	600
明電舎	品川区	4,000
坂本龍一全国Trioツアー	指定無	8,563
日比谷花壇渋谷マークシティイルミネーション	指定無	200
日比谷花壇八王子東急スクエアイルミネーション	指定無	100
九州ノコスとずイルミネーション	指定無	5,700
九州ノコス光ミラージュ2012	指定無	400
日比谷花壇熊谷イルミネーション	指定無	200
日比谷花壇水戸内原イルミネーション	指定無	200
代官山コンサート	指定無	200
日比谷花壇横浜ビジネスパークイルミネーション	指定無	2,000
日比谷花壇羽田空港イルミネーション	指定無	2,800
ヴォルグ	指定無	2,000
ECOテック&ライフとちぎ2012	栃木	1,000
日比谷花壇名古屋まちづくり公社イルミネーション	指定無	1,600
Q3/第3四半期計		87,717

FUJI Rock Festivalテント周囲	新潟近隣	600
宇部興産チャリティーコンサート	山口近隣	2,000
札幌クラリネットサロンコンサート	指定無	250
RAUL株式会社	指定無	43,050
エコメッセ2012 inちば	千葉	2,000
★中畑様結婚式	三重・岐阜	360
沖縄クラリネットサロンコンサート	指定無	250
山口県東部音楽祭	東北	500
もったいないフェア宇都宮2012	栃木	500
エコもりフェア	栃木	1,000
流山市生涯学習センター	千葉	100
Q2/第2四半期計		50,610

明電舎	品川区	280
宇部マテECOコンサート	山口近隣	500
九州ノコスの株シグザム	指定無	1,000
仙台KHBエコライブ	宮城県	850
小平環境フォーラム「楽しく省エネみんなで省エネ」	小平	100
大垣市環境市民フェスティバル	大垣市	100
日本合成化学工業大垣工場神田	大垣市	10,000
日本合成化学工業大垣工場上屋	大垣市	5,000
日本合成化学工業大垣工場本今	大垣市	5,000
フタムラ化学大垣工場	大垣市	20,000
環境アリーナ	指定無	667
三洋商事	東大阪	8,000
Q4/第4四半期計		51,497

※近隣県とは・・・指定された県が売り切れていた場合、囲む(隣接)県の古い順に販売中。 ☆被災地県は岩手・宮城・福島県とのリクエスト。

※ ★結婚式の2県は新郎新婦それぞれの出身県を購入。

※産地指定の場合は各産地で古くから販売しているファーム順に販売。

H24年度 “産地指定無” の場合の販売対象ファーム

産地指定無の販売対象ファーム<11/14マデ>・・・05P009(2005年第2期ファーム)2007年9月～2008年8月発電分

<11/15以降>・・・05P105(2005年第3期ファーム)2007年12月～2008年11月発電分「29,440kWh残(3/31)」

今後の産地指定無の販売対象ファームも2007年～2008年発電分の未だ残っているファームから順次販売していきます。「約200,000kWh残」

→ → → → → → → → → → 各ファームの皆様、販売終了までもうしばらくお待ちください。

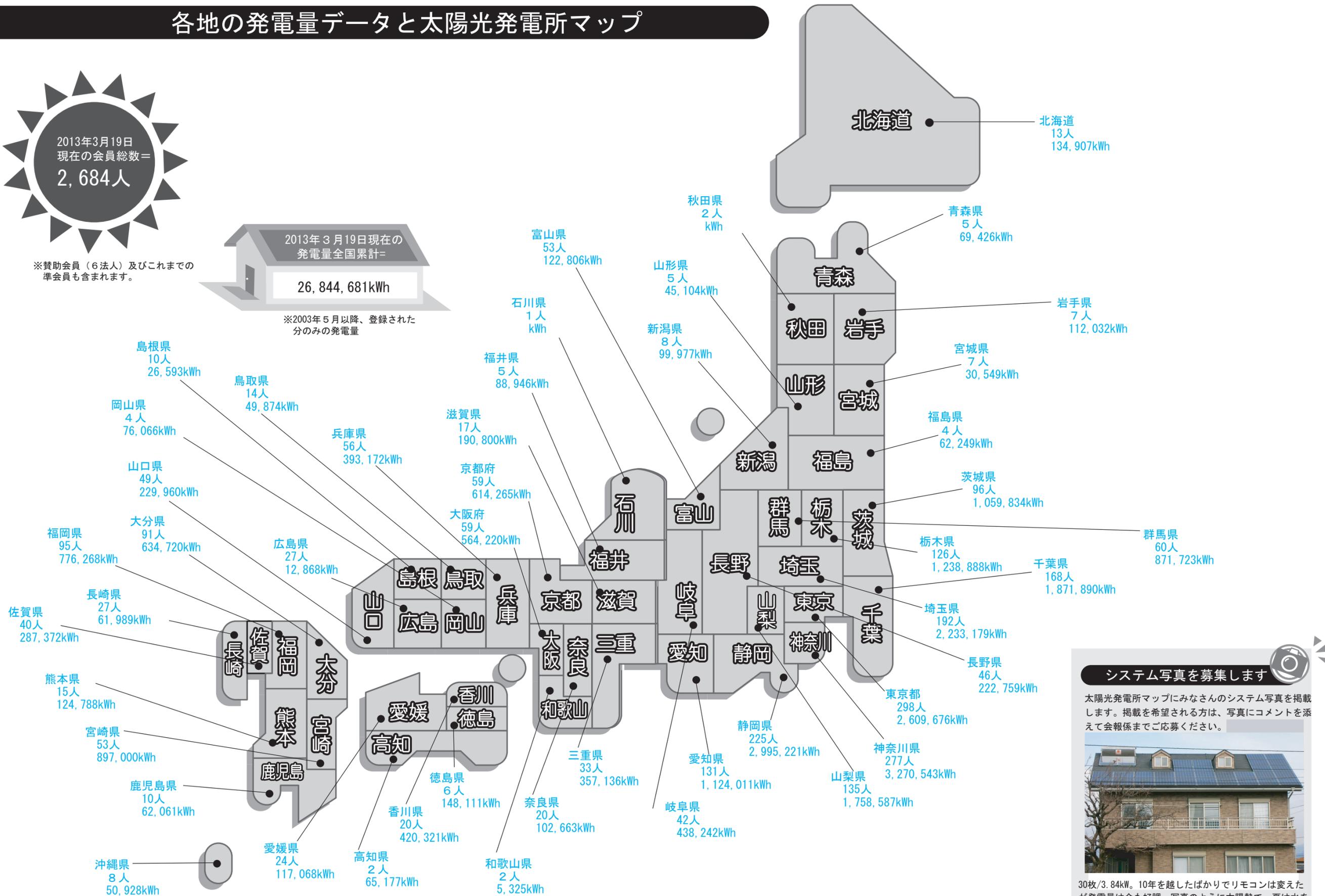
各地の発電量データと太陽光発電所マップ



※賛助会員（6法人）及びこれまでの
準会員も含まれます。



※2003年5月以降、登録された
分のみの発電量



システム写真を募集します

太陽光発電所マップにみなさんのシステム写真を掲載
します。掲載を希望される方は、写真にコメントを添
えて会報係までご応募ください。

30枚/3.84kW。10年を越したばかりでリモコンは変えた
が発電量は今も好調。写真のように太陽熱で、夏は水を
足し家族5人、風呂に入ってます。(A03079319/山梨県)

最近、PV-Net 会員になられた方にお話を聞きました。

東京世田谷区会員

2012 年秋に入られた方にメールインタビューさせていただきました。



Q/設置時期は？

2011 年 8 月です。

Q/何 kW ですか？

5kW です。

Q/メーカーは？

三洋です。

Q/設置を考えたきっかけは？

自宅を新築するタイミングで、自然エネルギーの有効活用や災害への備えの両面で検討しました。具体的には太陽光発電以外にも、太陽熱給湯、蓄熱暖房、風力発電、ガス発電、蓄電システム等を検討し、現段階で採用したのが太陽光発電でした。

Q/設置で苦労した事は？

基本的には太陽光パネルを載せる前提で設計をしておりましたので苦労はなかったのですが、細かい点では、天窗の位置が都合が悪かったり、設計時には分からなかった隣家の屋根形状が発電に影響したり、さまざまな計画変更は必要でした。また補助金の申請/承認と施工のタイミングが合わず、一度は設置を見送り翌年に改めて設置するといった経緯がありました。

Q/設置後のいい話。どんな点があげられますか？

自家発電ができるということだけでなく、発電量や消費量をモニターできることに価値があったと思います。今風に言えばスマートハウスや HEMS ですがリアルタイムに消費電力が目に見え、例えばテレビを消したらこれくらいエアコンならこれくらいと実感を持てたことで一層節電が進んだと思います。昼間の発電量が消費量を超えていると、その瞬間は太陽光で自宅の電力消費（テレビも、料理も、冷暖房も！）は賄われているという新鮮な驚き、さらには近隣にもお裾分けし所謂エコに貢献しているという満足感もありますし、自給率 100%のときだけステレオのボリュームを上げてよいと自分だけのルールを作って、太陽の恵みを感じたりしていました。

Q/自然エネルギーに関する海外の色々な情報が入る中、日本に住む者として、あなたが今一番気にしている事、ありますか？

各国の事情により政策の評価は変わるので成功した、失敗したということは気にしていません。

いつか枯渇する化石燃料を前提としない、自然エネルギーやゴミ発電といったものの技術革新や政策に期待していますし、国や市民のレベルで安全

保障という観点や持続可能という観点での議論や技術開発がもう少し進むと良いなと思っています。我が家としては蓄電システムや太陽光発電の保守が次の課題と考えています。

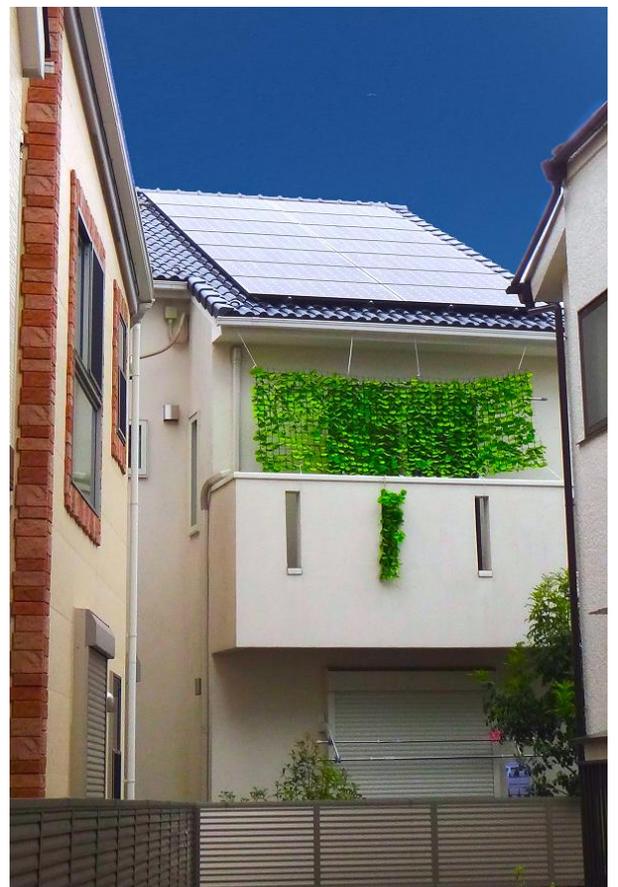
Q/自然エネルギーに関するあなたのこれからの計画・夢、ありましたらお聞かせください。

我が家としては、昼間の発電電力を溜めて夜間使うという蓄電および分電盤を通した電力利用システムが作れたら完成形だと考えています。また技術革新次第ですが太陽熱や風力は活かす余地がまだまだあると考えています。

《……どうもありがとうございました。

オフ会でも一度お会いしたいですね。

/編集チーム 2013.3.19》



川柳 2013

毎年恒例となり今年で26回目の某生命会社の「サラリーマン川柳100選」は新聞テレビでも取り上げる。

これは、「そこはそれ 魚心あれば 水心」の類で、CMを期待してのことか。しかし今年も「サラリーマン川柳2013 100選」には、「太陽光」とか「ソーラー」という語句は皆無だった。日本のサラリーマンのエネルギー意識とはこんなもの…なのか。

PV川柳で大いに意気を示そう。PV-Net Newsも今回で26号だ。まずは、PV川柳の大御所、川崎の五右衛門さん

「復興に もっとPV 活用を」

これは、復興支援 岩手県野田村だらすこ太陽光市民ファン（サポートセンターはPV-Net内）が始まりか。頑張ろう。さらに、五右衛門さんの川柳を紹介しよう。

「即、決断！ 買い取り価格は 上がりません」

「フクシマに メガソーラーの 大拠点」

次の川柳を名誉挽回で作ったとか。

「“花は咲く”お天道様の おかげです」

蛇足になりますので、何も付け加えませんが、返し歌として、「晩酌も お天道様の おかげです」なんて……。

晩酌と言えば、買い取り価格が1kWh42円とすると、夏日のわが家の発電量15kWh、630円なる。500mlの発泡酒2本と枝豆は保証されます。

続いて、川口のはんさむさん。

「煙霧きて 発電日和が 台無しに」

あの日、3月10日はお先真っ暗になりました。

「太陽光 発電黄砂に 降参だ」

コウサとコウサン。山田クン木久扇師匠に座布団2枚！。川柳には、大雑把に分けると、次の四つが考えられる。

- (1) 伝統川柳 人情の機微を詠む
- (2) 時事川柳 時代を鋭く切り取る
- (3) 現代川柳 作者の喜怒哀楽を詠む
- (4) 駄洒落川柳 作者の軽薄な人間性の発露

はんさむさんの川柳の2句目は、時事+駄洒落のハイブリッドタイプだ。次は、何でも知ったか振りする埼玉のW-XYZの川柳。

「頁岩も 燃える氷も 今はPV」

時事川柳だ。頁岩は「けつがん」と読み、今はやりのシェールオイルのこと。燃える氷はメタンハイトレートのこと。

川柳は、五・七・五の音を持つ日本語の詩の一つ。口語が主体であり、季語や切れの制限もありません。会員各氏も思い立ったら川柳を一句作って、PV-Netの事務局に送って下さい。次号のPV-Net Newsでご紹介します。ペンネームも自由です。〈普及広報部・松田広行〉

再生可能エネルギー世界展示会 RE2012@幕張メッセ展示参加

3日間、プロジェクターから随時PV-Net紹介DVD(神奈川地域交流会制作)、PV-Netホームページ、リアルタイムでTwitter、facebookページ(市民共同発電所)を投影し紹介しました。又、「節電しても楽しい生活」テーマで、来場者にその場で自由に書いてもらい、そのままコルクボードに掲示コーナーも用意。

又、今年2013年の開催は12月ではなく季節と場所も変わり、7月24、25、26日お台場ビックサイトで開催される事になりました。(次ページに写真続・)



評判だったPV相談コーナーの壁面(左)と動画映像画面(中央)



RE2012@幕張メッセ展示参加.....

「太陽光発電技術者育成のための基礎知識」他、書籍販売テーブル



コラム

NO NUKES から 2件

● NO NUKES コンサートが数ある中、昨年夏のこれはグリーン電力証書が多く使われ、さらにこの日は twitter、USTREAM 上でも熱く熱くグリーン電力証書の話がアップされていました。(坂本さんはコンサートでは必ずグリーン電力を使用しますが、複数社に分けて購入します。)

2012年夏「NO NUKES 2012@幕張メッセ」 <http://nonukes2012.jp/>

～33年前アメリカで「NO NUKESコンサート」が大規模に行われた。
あの頃は誰が今の福島を予想できただろうか？～
1979年、アメリカ・スリーマイル島原発事故をきっかけに、ジャクソン・ブラウン、グラハム・ナッシュ、ボニー・レイット、そして今や米連邦議会議員のジョン・ホールらが中心となって開催された。反原発コンサート「NO NUKES」、出演者の一人ジョン・ホールはすでにここで「Power」という曲で「太陽の力を僕にください」と歌い出し、太陽光や風力といったいくつかの代替エネルギーを提案していた。
<http://protestsongs.michikusa.jp/power.html>

あれから33年・・・
坂本龍一の呼びかけによる「脱原発」をテーマとした音楽フェスティバル『NO NUKES 2012』が、2012年7月7日・8日に千葉・幕張メッセで開催された。

福島原発事故の原因究明もままならない状況での再稼働判断に日本中が揺れる中、音楽の力で脱原発のメッセージを強く訴えたわけだ。
出演：
YMO+小山田圭吾+高田漣+権藤知彦、ASIAN KUNG-FU GENERATION、ACIDMAN、BRAHMAN、斉藤和義、ソウル・フラワー・ユニオン、(故)忌野清志郎スペシャルセッション、難波章浩-AKIHIRO NAMBA、元ちとせ、山崎まさよし、海外からはKRAFTWERK(ドイツ)の2日間
USTREAM 配信ではライブの合間も多数のトーク番組が組み立てられており、グリーン電力証書の件も紹介される。

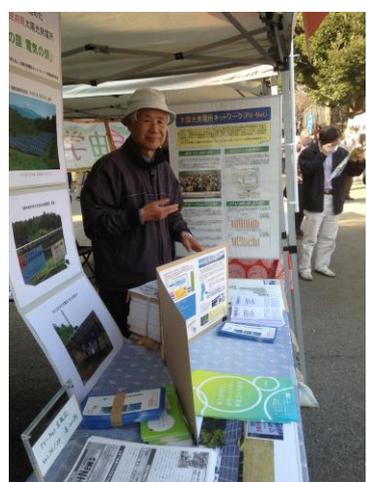
●このイベントおよびリハーサルに使用される電力25,500kWhは、太陽光(PV-Net)、風力、バイオマスから生まれたグリーン電力証書を購入し、100%自然エネルギーによるライブイベントを実現。(バイオマス・風、そして太陽・・・「アース、ウインド&ファイアー」自然の恵み電力で!!)

ENERGY GREEN(バイオマス発電8,500kWh) / 日本風力開発(風力発電8,500kWh) / 太陽光発電所ネットワーク(太陽光発電8,500kWh)

当日のオンタネット生配信LIVE=USTREAM twitter上でG電力証書にふれると、2日間で約500件のリツイートがあった。
G電力証書話題で一時的に500ものリツイート数には驚きである。一般の人でも知る人は知っているわけだ。

Twitterで約500件の
グリーン電力に関するリツイート

●今年3月9日、千駄ヶ谷明治公園「つながろうフクシマ・さようなら原発・大集会」では、PV-Netもブース展示行いました。天気も良く人出も多かったので、活動紹介パンフ、市民共同発電所紹介等数多く手渡ししてきました。(写真：藤井石根代表)



宮崎から

宮崎地域交流会はひむかおひさまネットワークと PV-Net 地域交流会との2枚看板となっていますが、新エネ大賞を「ひむかおひさまネットワーク」として受賞しましたので報告します。「太陽光発電王国 宮崎を目指して！」の活動で平成24年度 新エネ大賞 審査委員長特別賞を受賞しました。この大賞は新エネルギー財団 (NEF) が、新エネルギーの一層の導入促進と普及及び啓発を図るため、新エネルギーに係る商品及び新エネルギーの導入、あるいは普及啓発活動を広く募集し、そのうち優れたものを表彰するものです。

今年度は全国の23団体の応募のうち6団体が選ばれました。普及啓発活動部門では、私たち1団体だけが審査委員長特別賞を受賞、他の5団体は大企業が名を連ねています。中でも特徴的なものは、東部鉄道が今話題の「東京スカイツリータウン」事業において国内の地域冷暖房で初めて地中熱利用システムを導入するとともに高効率機器の活用により年間の消費エネルギーを大幅に削減し「スカイツリー」という国民的関心度が高い施設に導入したことによる効果を合わせて評価されました。

一旦、私がここで宮崎での「ひむかおひさまネットワーク」の活動について紹介をさせていただきます。

《設立経緯》

太陽がサンサンと降り注ぐ宮崎県。この自然の恵みを生かし、宮崎県を太陽光発電王国にしたいと考え、平

成15年10月に市民団体「ひむかおひさま共和国」を設立し太陽光発電の普及啓発活動を開始しました。

平成21年10月にはNPO法人化するとともに太陽光の恵みをより広く訴えるために名称を「ひむかおひさまネットワーク」に変更しました。

《活動概要》活動は太陽光発電を中心とした相談窓口、講演会、勉強会、施設見学会などを実施しています。特に地方自治体や関係機関とも連携しながら新エネルギーの普及啓発活動を長年にわたり継続的に行っています。この点が評価され、10年目の節目となる今年、新エネ大賞を受賞しました。小中高等学校からの依頼による出前授業では災害時に活用できる独立系太陽光発電システムの実演、ソーラーグッズの実演会、ミニソーラーカー製作等を行うことにより、太陽光等の新エネルギーを身近に体感する授業も行っています。また、県内の各団体からの多数の講演依頼にも応じています。

《会の設立当初》今から10年前の活動開始当時の太陽光発電施設の価格は標準的な4kWシステムで400万円と高価な買い物でした。この時代に地方公共団体に太陽光発電を設置すべきですと提言をしていましたが、投資した金額の元を取るのに約25年かかる時代だったので、提言は受け入れられませんでした。当時の買い取り価格は、売電価格同じ、1kWh当たり

22円程度でした。地球温暖化防止のためにも太陽光発電を取り付けましよう、講演等で話しをしてもほとんどの人が「高いよねー」という反応で終わり、それ以上に話題が広がることもなく、かえって変人扱いされるような状況でした。この頃、何度もこのような太陽光発電等、自然エネルギーの普及啓発活動をやめようと思うこともありましたが、この頃NHKでシリーズ番組として評価の高かったプロジェクトXを見て、先陣を切っていくのはどのような分野でも大変なことだと思い、電気技術者として自然エネルギーの普及に努めることは必要なことだと自分を奮い立たせ頑張った時期もありました。

今回のこの受賞を区切りとし、今後も「太陽光発電王国 宮崎を目指して！」がんばりますので、ご支援・ご協力よろしくお願ひします。

(楠見 博)

[左から新エネ財団の近藤代表理事、経産省資源エネ庁新エネ対策課の村上課長（固定買取制度話題の担当課長）、楠見、杉本副所長、審査委員長代理の日本大学の長井准教授]



地域交流会報告

関西から

今年度 8 月の関西地域交流集会以来、PV-Net 関西が活気付き、変わろうとしています。

1 つは、世話人間の意見交換がスムーズになるインターネットの有効利用が工夫されました。グループメールと、データの共有化のためのドロップボックスです。ここで理事会の議事録なども見ることができます。情報が共有できたところで、活発な議論を促す下地が整ったということでしょう。

2 つには世話人会の運営を、意識的に決めることの出来る組織に作り変えようとしていることです。

3 つには、積極的に補助金、助成金を得て、活動の資金源を安定させようとしていることでしょう。

又、相談事業、技術者養成に向けては、既に経験のある地域交流会(兵庫、奈良など)との情報を共有し、各地の活動に活かすことができるよう、話し合いを持っています。



[これからの自然エネルギー/2月24日]

2月24日開催のフォーラム「これからの自然エネルギー社会に向け、私たちにできること」では、都筑事務局長を迎えて講演を、また3月3日には「日本が目指すエネルギー展

開・鍵を握る市民共同発電所」気候ネットワーク・豊田陽介さんの講演を企画しました。地域のエネルギー自給と自己管理、自然との共生、安心安全な社会へ、自然エネルギーをベースに、と。

[豊田陽介さん/3月3日]



今まで PV-Net として伝え続けていることですが、情勢は以前にもまして素早く動いています。PV-Net に課せられた期待は大きいでしょう。地域がどう動いていけるかが問われています。(岸本康子)

京都から

2012年度の京都の活動は、例年同様、フォーラム2とイベント参加2つ以上に参加。そして会員宅訪問を実施し会員宅訪問までは報告済み。

[下写真 フォーラム1]

11月11日(日)「PV-Net 京都フォーラム1」を企画、YS エネルギーリサーチの山藤 泰先生の講演「スマートグリッドと将来のエネルギー選択」を実施した。再生可能エネルギー普及は世界的には風力発電だが、日本では、太陽光発電が圧倒的に多い。近い将来、節電、省エネ、創エネ、中期的には、火力発電と再生可能エネルギーの大量導入、長期的には、スマートメーター、スマートグリッドの導入、そして電力供給構造の革新(=全国一体的電力供給)となるべきだと。送電同一と10電力会社の存在は、3・11以降限界にきており、送電分離と欧米先進事例に学び、再生可能エネルギーの大量導入と地域電力供給網の充実・自立化が急務だ。

12月22日(土)「PV-Net 京都フォーラム2」を企画。日本環境学会会長の和田 武先生の講演「世界のエネルギー動向と市民が創る再生可能エネルギー」を開催した。経済産業省の「再生可能エネルギー特措法の概要と調達価格等算定委員会」委員の5名の内の一人として昨年3月~4月に現行の「再生可能エネルギー全



量買取価格等の算定」に活躍された。次の5点について明快にお話された。

- (1) 再生可能エネルギーの重要性、
- (2) 再生可能エネルギー資源の特性と世界動向、
- (3) 電力買取制度先進国のドイツ、デンマークでの市民主導再生可能エネルギー普及と社会への影響、
- (4) 日本の市民・地域主導再生可能エネルギー普及による新たな発展に向けて、そして、
- (5) ドイツ、デンマークでの再生可能エネルギーの普及は、設置地域の住民が中心になって事業を進める地域分散型であり、法律で住民の20~30%が常に参加するよう規定している。地域活性化や住民への利益還元が重要視されている。参加者は現場を実地研修され、現地の声を聞くことができ、優れた研修の話は良かったと。2013年2月に経済産業省は、発送電分離のタイムテーブルを発表している。

(中村和歳)



[京都フォーラム2 /12月22日]

兵庫から

(PVネット兵庫) 活動報告

平成24年11月~平成25年3月
メンバーは50名、(財)ひょうご環境創造協会に3月現在2名が勤務して、窓口で太陽光発電を主とした、一般県民の自然エネルギー全般にわたる無料相談に従事しています。

中でも、北方、下井のコンビで、月に2回程度県下の出張コンサルに出かけます。

主に既設の住宅、倉庫に設置を希望

しておられる方々で、既に複数の業者から計画書や見積書を取っておられるケースが多いです。県のコンサル事業も4年目に成りますが、以前は、業者も又我々も説明資料が完備していませんでしたので質問や説明もかなり抽象的になりがちでした。しかし最近では、業者側も多くの資料を用意していますので、地域に依る年間を通じての日照グラフや、屋根の向き、角度に依る発電量の減分率、又東西に分けて設置した場合の午前・午後の効率等全て数表やグラフで説明出来るようになってきました。

したがって、以前の様に設置後の発電量が業者説明と大幅に異なるというトラブルは聞きません。我々は独自で屋根伏図面を作成して、現地の諸条件を考慮した概算の年間発電量や買電料金を算出して提示します。

既築の場合はパネルの取り付け方法や、構造的な質問が多く、農家等は倉庫や家畜舎等が多く、鉄骨の補強工事図面を描くなど、かなり構造的なアドバイスをします。

最近では、淡路の公共施設や空地等大型案件のコンサル依頼も増えて来ました。

世話人会は毎月必ず開催し、世話人全員出席で、活発な意見交換が有ります。



太陽光発電

自然エネルギーフォーラム 太陽光発電の拡大に向けて

最もクリーンなエネルギー、
太陽光発電の将来、
要注意の問題点を
専門家に聞く!

日時 平成24年12月2日(日) 13:30~
会場 兵庫県中央労働センター 1F 小ホール

主催 NPO法人PV-Net Hyogo
(太陽光発電ネットワーク兵庫県交流会)

共催 財団法人ひょうご環境創造協会

太陽光発電

本日のスケジュール

13:00	受付開始
13:30	開会挨拶 PV-Net兵庫県交流会 代表者 北方 龍一
第1部	
13:40~14:40	講演1 兵庫の再生可能エネルギー戦略 兵庫県副知事 金澤 和夫 (質疑あり)
14:40~15:00	休憩
15:00~17:20	講演2 太陽光発電システムの運用の実態と保守点検の課題 独立行政法人産業技術総合研究所 工学博士 加藤 和彦 (質疑あり)
17:20~17:30	休憩
第2部	
17:30~17:40	報告1 PV-Net兵庫の活動状況 兵庫県交流会世話人 林 洋幸
17:40~18:20	報告2 滋賀、京都、大阪、東京の活動状況 理学博士 三石 博行、中村 和盛 岸本 康子、 南里 弘 他
18:20~18:25	フォーラムのまとめ 兵庫県交流会世話人 下井 裕 及び閉会挨拶
18:25	閉会
18:40	同会場にて飲み放題懇話会 (バズセッション) (会費 ¥4,000)

地域交流会報告

1、平成24年12月2日(日)PV ネット兵庫主催、(財)ひょうご環境創造協会共催で金澤和夫兵庫県副知事、産総研の加藤和彦工博の二人を講師に招いて「太陽光発電の拡大に向けて」と題してフォーラム開催、神戸中央労働会館は参加者74名で盛況であった。

2、PVネット兵庫のメンバー出資に依る共同発電所計画が持ち上がり、高砂市の世話人所有地で計画。(最大50kWで立地条件は申し分無し)

3、平成25年1月23日、昨年が続いて今年も地球環境助成金(ミャンマーに於ける少数民族の農村の環境保全)を申請する。

4、平成25年3月10日「バイロジーフォーラム」と題し、芦屋大学客員教授小池ひろのり氏を講師にフォーラム開催。クリスタルビル6F。

5、3月11日(財)ひょうご環境創造協会宛て「平成25年度環境保全創造事業助成金」を申請。

他に進行中のものは世話人グループメールシステム、PVネット兵庫メンバー宛て一斉メール送信システム構築やホームページ作成
[Http://www.geocities.jp/pvnet_hyogo/](http://www.geocities.jp/pvnet_hyogo/)も行っている。

(北方龍一)

見舞われるケースもあります。メンテナンスフリーと言われてきた太陽光発電ですが、きちんと発電していることを確認して初めて役立っていることが確認できます。山梨県は「CO2 ゼロやまなし」を地球温暖化対策のテーマに掲げ、2050年にCO2ゼロ、エネルギーの地産地消100%を目指しています。山梨県の再生可能エネルギー賦存量調査ではそれが十分可能という結果です。そのためには、まず省エネ。そして、エネルギーは電気だけに頼るのではなく、熱利用は太陽熱や木質バイオマスなど、そのエネルギーにあった効率の良い使い方をすることが大事です。CO2 ゼロやまなしを達成するため、私たち発電者も責任持って発電ができるようこの学習会を企画しました。内容は、PVネットの都筑建事務局長さんをお願いして「太陽光発電を巡る今日の状況について」基調講演をしていただき、その後、山梨会員から①太陽光発電設置・活用事例 ②太陽光発電設置後のトラブル解決事例報告 ③災害時対応自立型設置事例報告を行いました。30席ほどのこぢんまりした会場でしたが満席となり、関心の高さが伺えました。(芦澤)

山梨から

山梨では、12月2日に、甲府市リサイクルプラザにて「太陽光発電学習会～太陽光発電設置前・設置後のギモンにお答えします～」を開催しました。再生エネルギー買い取り法の改正によって太陽光発電の設置が進み、特に山梨では日照時間が全国でトップクラスという理由から、また震災の影響もあって個人の屋根への設置もメガソーラーも急激に増えています。そのような中、設置した家庭では、設置後の説明が業者さんから足りず、データを見ない、モニターの見方がわからないなど、きちんと発電しているか把握できない場合があったり、設置後のトラブルに



神奈川から

1) 1月27日(日)恒例の太陽光発電導入説明・相談会&「フォーラム神奈川2013」を横浜市開港記念会館にて開催した。

午前=太陽光発電導入説明・相談会
一般19人、会員等を入れ30人参加
午後=「フォーラム神奈川2013」

講演1「福島で始まる太陽光発電の役割」(スマートハウス・スマートコミュニティ)産総研、大谷謙仁氏
講演2「HEMSと家庭用蓄電池エネグーンのご紹介」(横浜スマートプロジェクトでエコライフを応援) 東芝ライテック HEMS事業統括部 副事業統括部長北川晃一氏。

神奈川地域交流会で企画が進んでいるワークショップの紹介は世話人古峰聖治氏。会員宅の発電所、近況発電データ等アンケート結果報告。

2) 2月2日(土)相模原・大野台おひさまフェスタに参加。

3) 2月4日(月)平成24年度 かながわ地球環境賞・奨励賞を受賞! 神奈川地域交流会は、長年にわたり県下各地で一般市民に対して太陽光発電の普及啓発活動を実践してきたことが評価されて、「かながわ地球環境賞・奨励賞」を受賞。

神奈川県庁で表彰式が行われ、黒岩知事から表彰状をいただいた。およそ10年近く、会員のみなさんが力を合わせて活動を継続してきたことがいささか認められたものと受け止めたい。



4) 3月3日(日)「出前発電所を作ろう!」モジュール1枚で独立電源の作成、希望者対象、工作教室の実施。実習参加者6組、見学者等合わせて15人。50Wモジュール、コントローラー、インバーター、バッテリー、収納用コンテナボックス(小)を用意各自で組み立て。持ち運び用キャリーをも用意した。



4月14日(日)に第2回「出前発電所を作ろう!」を予定している。

5) 3月10日(日)ひらつか市民活動発表会で岡野庄太郎氏が発表。(横谷記)

東京から

○「こだいらソーラー市民発電所第1号」完成

昨年4月来、小平市民有志10数名による「出資型市民共同発電所」づくりを支援してきましたが、この2月、第1号が稼働しました。

<事業概要>容量12kW。パワコン3台で非常時電源4500W。小平市内協力者の3階建マンション屋上に設置。設置費用500万円。うち120万円は東京都補助金。自己資金は「擬似私募債」で1口5万円

(5年・単利で年0.4%)と10万円(10年・年0.8%)、計49人からの借入金で、無事、目標額を調達。

小平市の広報協力もあり、朝日・読売・東京新聞

で紹介され大きな反響がありました。点灯式には出資者含め約40名が参加。急遽、市長も来場。印象的だったことは、パネル実物を見て触れてみたメンバーが、思わず「嬉しい」と達成感を口にされていたこと。「見える化」「触れる可」はこうした活動の大きな励みになりますね。

正直、第1号は補助金の締め切りの関係でバタバタでしたが、第2号で、小平以外の地域との連携も視野に、借入ではなく出資型のモデルづくりにじっくり取り組みたいと考えています。

○ミニ見学会 第2弾 「ソーラータウン府中」(相羽建設)

東京都の低炭素住宅モデル事業に指定されているクアトロソーラー(OMソーラー+PV)高断熱住宅(Q値1.9W)を見学。もう1軒、建てたくなるような高性能かつ快適な住宅でした。

○東京地域会員アンケートを実施

入会目的、その達成度、会報やメールによる情報伝達状況、PV健康診断の利用状況、参加したい企画、等について調査しました。今後の活動に生かしたいと思います。

(他地域の世話人の方でアンケート集計結果をご希望の方はメールで事務局を通じて東京地域:田中稔までご連絡下さい)

[パネルに触れて実感を味わう出資者を
テレビ朝日が取材]



理事会報告

◆参加者◆ 藤井代表理事、横谷副代表理事、野原副代表理事、都筑専務理事、梅澤理事、田中(稔)理事、國井理事、

田中(東)理事、松田理事、三石博行(オブザーバー)、スカイブ/都筑修三(オブザーバー)、(欠席:武田理事、岸本理事、松隈理事)

2.2 事務局にて

【報告事項】

(1) 部会報告

【普及広報部/松田】会報26号は3月下旬。12月のRE2012幕張メッセは初めて参加のボランティアさんが多かった。今年は7月開催に変更。エコプロダクツ展は不参加。書籍販売も「太陽光技術者育成のための基礎知識」を中心に売れ行き好調だった。

【PVG事業部/藤井和】第3四半期を終えての今期販売は約110kWh。産地指定が4割、指定無が6割、1~2割が新規。理事から配布資料の様な状況を会報にも載せるべきとの提案。販売こそ苦勞しているが、社会的な意義は大きく続ける意義は勿論ある。

(2) 地域報告

【東京ブロック/田中稔、田中東、國井】12月9日に関東ブロックの会議を行い理事会報告と埼玉、群馬、千葉、神奈川、静岡、山梨、東京と各地域の活動報告があった。静岡は目に見える形で発電所が1基完成した効果は大きく、私も参加したい作りたいという動きができてきている。東京小平の共同発電所の話はNPO認可が降りる予定で、NPOがファンドを集められるかについて答えが出ていない為まずは擬似私募債の形式で借り入れて行う予定。出資募集が可能かは都のNPO法人係の最終判断待ち。又、市民団体と連携した個人向けソーラー設置事業を検討中。他、ソーラータウン府中で見学会を実施。東京の会員アンケートも行った。

【中部ブロック/野原】本日2月2日「エコハウス暮らし方交流会」。年1回のエコな暮らし方に取り組んだ経験を報告しあう。報告しながらそれに対する疑問を含め、各参加者の意見を出していき進行していく。昨年から、大学の研究者等、新しい人たちの参加が見込めるようになった。コーポ愛知が自然エネルギーに取り組むという方針を決めたこともあり、何名かが参加してくれている。恵那山おひさま発電所の取り組みはサポートセンター協力のもと、昨年7月くらいから進んでいる。昨年の暮れに、経産省の方に書類を提出し、1月末にIDをもらい、現在は中部電力との交渉に入っている。

【関西ブロック/三石】1月20日に関西ブロック代表者会議を行い大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀それぞれから報告がなされた。

京都は会員宅を訪問、平和堂財団に申請、京都市環境事業団フォーラム参加。兵庫は12月2日にフォーラム開催。兵庫は会員が増えているとの事。滋賀は業者との交渉を行い2件の家のパネルの全面交換を実施したがPV-Netの名前を出したことで対応が一転したようだ。

関西ブロックは地域の活動を2000名くらいに持っていこうという目標のもと、まずは世話人間の徹底したコミュニケーションを図るため、グループメールを使用し日常的な話し合いが可能に。センターとのコミュニケーションをしっかりと

互いの風通しを良くしよう、事務局にお願いするのであれば我々自身もしっかりとした機能を持たなければいけない。自分たち自ら動こうという議論もあった。世話人が会議に来るだけじゃなく世話人会に機能をもたせ実務作業を担おう。補助金獲得のプロトコルを決め申請実務を簡潔化できないかという提案、又、今後の課題として、世話会は5ヵ年計画、年次予定を作成しよう。補助金申請に関するプロフェッショナルな体制を作ろう。さらに半導体の専門家などがいるので、ソーラー事業者と話をする専門部会を作ることを目指す、等が話し合われた。

(3) サポートセンター近況

【事務局長/都筑】市民ファンドサポートセンターという名称に関し、今は市民共同発電所というより市民“ファンド”という言葉が関心を集めやすい。金融の部分もフォロー可能ということを強調するために「市民ファンドサポートセンター」に。あくまでサポートがメイン。対象としては、PV-Net 地域交流会主体とPV-Netとは関連のない団体の2パターンを想定。第二種金融商品取引業2社、弁護士、会計の専門家との連携。産総研、NPOバンク、信金などのメンバーなどに、検証助言を得るメンバーの要請をしている。又技術の点では適正技術が基本。品質水準は一定の段階まで保つことを目指すことが不特定多数の出資を募集する部分においては重要である。

(4) 2.16 大集合イベント

【事務局/藤井】5月に10周年イベントを開催することを念頭に今年は例年よりもコンパクトに開催。

(5) PV健康診断

【事務局/伊藤】

神奈川県地域交流会の小峰さんに相談し、推定発電量の計算式を作ってもらい、そちらをシステムに組み込む方向で一步進めている。

(6) 意見表明について

【事務局長/都筑】

「固定価格買取制度の調達価格等への意見」表明を行いたい。FITの調達価格変更に関して今、検討が行われていて30円後半という話も言われているが、価格の問題云々は大変だから、その前に、区分に関してPV-Netとしてこうしてほしいという話を出そうと考えている。内容は、10～50kW、50～500kWという区分についての価格をキープしてほしい。市民がオーナーシップを持って、共有できるカタチで普及させるのが本当の普及じゃないかと。それを国としても積極的にフォローするような政策にすべき、という意見を出す予定。(理事からは)産業用は下げたとしても、住宅用の据え置きや下げ幅キープも求めたい。また、10年間の買取終了後のことがまったく言及されていない。住宅用の相場は下がっていないため、住宅用は下げる理由はないはず。

(7) 日本住宅性能検査協会から

【事務局長/都筑】日本住宅性能検査協会(太陽光発電アドバイザー協会)からの提案。太陽光発電アドバイザーの試験を通った人にPV-Net会員になってもらう。入会には審査があるとしているが試験に合格した人は専用のIDで入る。会費3000円の優遇

として性能検査協会は2000円の負担を考えている。PV-Netとしては太陽光発電アドバイザー会員を積極的に活用することを考えたい。もともと相談員を養成をして、養成された人が普及活動しながら相談に乗る体制を作ろうとしているが、これには格好な場。いろいろな教育の現場に我々が認めたアドバイザーが相談員として講師派遣できる仕組みづくりもできる。(理事からは)事務手続き上面倒もあるが、太陽光発電アドバイザーという試験を受けて通った人たちは、アドバイザーになる意欲を持った人たち。そういう人たちが参加するかしらないかというのは大きい。PV-Netは5年後、10年後にはどうあるべきなのかという長期戦略をわれわれがどう考えているかという部分で変わる。こういう時代、我々はもっと力を持つべき。その時に力になるのは会員(の数)。活発に活動できる人も増やすべき。我々は自らをどう活性化するか、どうしたらより良く発展するかを絶えず工夫しなければならない。活かすも殺すも私たち次第。結局、我々は後継者を育てなくてはいけない。組織をつなげていく=次世代を育てるのは今のわれわれの仕事、等の意見が出された。

(7) その他報告

●東京都からの委託で太陽エネルギーを推進するための冊子をPV-Netとして監修・編集を行う。

●今後、新たにメンテナンス事業をやっていききたい。現在、アウトプットの発電量でシステムの不具合をみていく手法を確立しているが、もうひとつ求められているのが、市民レベルで可能な点検手法。簡単なチェックシートと仕組みを作成すれば、会員同士の相互扶助サービスにもな

る。それにより、会員の安心につながればメリットは大きい。一方で12年を超えるシステムが増えてきていて保証範囲外になると3、4万円の点検費がかかる。そこをフォローする活動にもしたい。

●10周年記念イベントを行う。5月23日が10周年。5月25日に会場を抑え10周年記念イベントを行う事を決めた。



[10年間の年表を見る理事達]

【意見交換】

●組織運営—地域とセンターのと連携について・・・事務局体制に確かに問題点は多く資源がない所で長時間労働になり情報が遅れたりする事は出てきているが、別の面で培っている成果も見ていただきそこからどう維持発展させるかではないか。もちろん変革も必要。今後、総会に向かい役員選出や今後の取組の方針を作り問題を解決していきたい。

前回の議論では事務局機能強化よりも先に地域連携がある、という話も。地域が自立した活動を強めることで情報交流する仕組みを作っていくことが必要ではないか。理事が主導的に活動を引っ張る方向性も含め事務局に何かを求めるというよりも自分たちの活動を強めていこうという意見も出た。

☀️ ご寄付、どうもありがとうございました！

川崎 忠夫 美浦 匡彦 岸本 康子 小代 力 中根 修子 山本 長晴
環境アリーナ研究機構

・・・活動へのご理解とご支援に厚くお礼申し上げます。

☀️ PV-Net 活動を応援して下さる、

賛助会員を募集しています！

太陽光発電所ネットワークでは、活動趣旨に賛同し運営を支援して下さる団体・企業・個人の皆さんを募集しています。賛助会員名は当団体のホームページ（以下 PV-Net HP）、賛助会員一覧にも掲載されます。募集の詳細はPV-Net HPをご覧ください。

	年会費（入会金※1）
企業・団体	3万円/1口 1口～※2
個人	1万円/1口 1口～

※1 初年度は入会金のみで年会費は不要。
※2 年会費は1口以上でお申し込み下さい。

☀️ 各地、市民共同発電所の市民ファンド募集中です。

2～5ページにも紹介しましたが下記ファンド募集が始まっております。

現在、出資受付中の市民ファンド、または発電所名（2013.4.10）
岩手県 「復興支援 野田村だらすこ太陽光市民ファンド」
秋田県 「大沢大規模太陽光発電所 <県産品応援型>市民出資」
長野県 小諸エコビレッジ市民共同発電所
岐阜県 中津川「恵那山おひさま発電所」

内容の詳細は、PV-Net市民ファンドサポートセンター・専用ホームページも開設され、紹介されております。

<http://www.peoplefund-support.com/>

☀️ PV-Net事務局twitterもあいかかわらずつぶやいています。

アクセスはHPトップページからできますが、日頃twitterなさっている方は時々[ツイート]お願いします。

ペンギンのはばたき

□PV-Net 設立から10年。当時はかなわぬ夢のように思えた固定価格や全量買取制度。世の中の変化に驚くばかり。時代が私たちに追いついてきている。私たちはまだまだ先を見る。私たちの一歩が未来の日本社会をつくっていくと確信しながら。(伊)

□事務局の前のラーメンに最近ハマってますが、夜は野球中継で巨人がどうだのこうだので・・・うるさいです。(Kazz)

□広報として書いたニュースリリースが記事になり、いろいろな人から喜ばれました。末席ながら情報発信に関わる者として仕事冥利に尽きます。(KATO)

□花粉症に悩まされています。現代文明病の1つでしょうか？エネルギーシフトの一つに花粉症克服、いや自然回帰をノミネートします。(都)

Editor's Notes



特定非営利活動法人
太陽光発電所ネットワーク(略称:PV-Net)
〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10
湯島ビル602号室

〈交通のご案内〉

- ①JR/地下鉄御茶ノ水駅「聖橋口(秋葉原駅側)」より徒歩5分
- ②地下鉄新御茶ノ水駅「B1出口」より徒歩5分

T EL 03-5805-3577
F AX 03-5805-3588
URL : www.greenenergy.jp
E-mail : info@greenenergy.jp

頒価：400円(会員は会費に含まれています)

<11月>

- 9 東京世話人会
- 10 埼玉地域世話人会
- 11 京都フォーラム1
- 17-18 「伊豆の国電気の畑」見学会
- 17 栃木地域交流会 世話人会
- 18 埼玉地域交流会 和光市民まつり出展
- 20 神奈川地域交流会 世話人会
- 25 栃木地域交流会 世話人会

<12月>

- 1 埼玉地域交流会子どもエコフェスティバル出展
- 2 兵庫フォーラム
「太陽光発電学習会」(山梨)
- 5-7 RE2012 幕張メッセ出展
- 8 埼玉地域交流会 世話人会
- 16 東京世話人会
「ソーラータウン府中」見学会&世話人会
- 18 神奈川地域交流会 世話人会
- 22 京都フォーラム2

2013

<1月>

- 11 東京世話人会
- 16 中部地区世話人会
- 17 静岡地域交流会
- 19 埼玉地域交流会 世話人会
- 27 フォーラム神奈川 2013

<2月>

- 2 第6回エコハウス暮らし方交流会(中部)
相模原・大野台おひさまフェスタ
PV-Net 理事会
- 9 埼玉地域交流会 世話人会
- 13 東京地域交流会 世話人会
- 16 2013年大集合イベント(水道橋)
- 23 こだいら設立記念フォーラム
- 24 フォーラム(関西)

<3月>

- 3 「日本が目指すエネルギー展開」(関西)
- 9 つなごろうフクシマ! さようなら原発
大集会出展/千駄ヶ谷明治公園
埼玉地域交流会 世話人会
栃木フォーラム
- 10 バイオロジーフォーラム(兵庫)
- 13 東京世話人会
- 31 埼玉地域交流会

5月25日

10周年イベント開催!!

